

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の触れる場所へ法人の理念を掲げて意識の統一を図っている。全体会議・ユニット会議等の場においてもより良い施設を目指して意識の統一を図っている。	人としての尊さや人格を敬愛することを説いている法人理念が玄関に掲示され、職員や外部からの人にもわかるようになっており、管理者は職員会議や申し送りの際に随時理念に触れるようにしている。また職員が理念にそぐわない言動をした場合には職員同士で注意をし合ったり、管理者が直接指導したり、必要に応じて本部職員も交えて、話し合いをし理念の浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんをはじめとする地域の方々への相談や情報提供をして頂いたり地区行事への参加をさせていただいたり、地域の方と交流する機会をもっている。	法人として区費を納め、区長からの情報や区内の掲示板より行事を把握し、地区の敬老会やふれあいの集いなどに参加している。また、秋祭り際には獅子舞や子供神輿の来訪があったり、地区にある保育園との交流会も行ったりして、利用者の楽しみの一つとなっている。ホームには定期的に音楽療法や歌のボランティアが来訪し、敬老会には手品のボランティアも来訪し交流を図っている。2月よりのコロナ禍のため、地区行事への参加やボランティアの来訪が自粛となっており、現在、ボランティアの方が、音楽療法を継続できるようにDVDを作成して準備しているという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター・居宅介護事業所からの紹介者の見学や地域の方へ向け当事業所の内容を紹介する機会を設けて理解いただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において利用者様やサービスの実施状況を報告し、頂いた助言や改善策案を実際の現場でのサービスの向上に努めている。	毎年3月に年間の開催日を決定して、同じ法人のグループホームと合同で2ヶ月に1回開催している。家族代表、区長、地区社会福祉協議会代表、民生児童委員、市高齢者活動支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員が参加し、利用者状況や活動を報告後、質疑応答を行っている。薬のヒヤリハットが多くあった時期には運営メンバーから助言があり、職員2名で確認するようになってからヒヤリハットが改善された事例もあったという。現在、コロナ禍によりメンバーを招集できないため、運営状況をまとめた資料とこもれ陽新聞を送付し代替している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ出席していただき、助言をいただいている。事故報告等についての市への一報や対応について指導をいただいている。	随時市の担当課とは情報の交換を行ったり、市主催の講習会などに参加しており、同じ敷地内には地域包括支援センターもあるため、様々な事柄について相談している。また介護認定更新の際には家族に代わって職員が対応したり、更新申請や区分変更の代行も行っている。2月までは月1回あんしん相談員の来訪があったが、現在はコロナ禍により一時中断となっている。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の意識をもってケアをしている。玄関の施錠については、神奈川県的事件後から施錠している。理由は玄関の出入りが死角になるためである。	現在身体拘束は行っていないが、所在確認と危険防止のために家族に相談し、三分の一弱の利用者がセンサーマットを使用している。運営規定や重要事項説明書、契約書などに身体拘束を行わない旨が記載され、身体拘束委員会による3ヶ月に1回の研修もを行い、職員の人権意識を高めている。また、常日頃から職員の声掛けの仕方やスピーチロックについても注意を払い、随時、管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者・職員が高齢者虐待防止関連法についての意識を強くもち、事業所内での虐待が見過ごされていないか注意を払い職員会議または通常のミーティングの中においても常に意識するようはなしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がいる。管理者および職員は関係者と連携をとり、支援を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容、重要事項等の説明を充分に行い、不安や疑問点を確認したうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の新聞は隔月で発行し、利用者様の様子をお知らせしている。別に毎月ご家庭宛にお便りを出し、ご意見ご要望をお伝えいただくように通知しているとともに来所時や電話にてご意見をいただけるようにしている。	全体の7割くらいの利用者が自分の意見や希望を表明できるが、日常のケアの中で汲み取るようにしており、家族からは面会時や利用者の状況を電話で報告するときなどに要望を聴くようにしている。また利用者の状況は些細なことでも家族へ報告するようにし、隔月で発行している「こもれ陽新聞」でも様子がわかるようにしている。現在コロナ禍により面会制限を行っており、写真付きの手紙を送付して様子を伝えるようにしている。今後、オンライン面会の体制を整備していく予定がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と同様に介護業務をしつつ職員の意見や提案に向き合い、話をしている。全体会議、ユニット会議での意見の交換、毎月のユニット会議でのカンファレンスの場においても意見の交換をしている。	コロナ禍以前は毎月全体会議やユニット会議を開催し、業務連絡や利用者カンファレンス、行事について意見交換を行い、必要に応じて食事係や献立係などの係会も随時行っていた。現在は朝礼時やケアのすき間時間を利用してミニカンファレンスを行い、情報や意見交換も行っている。また、法人として人事考課制度があり、職員は半期ごとに自己評価を行い、自分のケアを振り返っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所の管理者と共に職員の勤務状況の把握をし、資格取得の支援やスキルアップができる体制を整備している。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講し、知識や技術を習得し個々の意識や意欲を高めるよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場で他事業所職員とケアの情報交換ができる場を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や施設を訪問し、本人、家族と面談する中で困っていることや不安なこと、要望をヒヤリングしたうえで本人、家族に安心していただけるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から今までの生活歴、家族関係、現在の生活の状況、心情を引き出し信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況や希望をお聞きして必要としているサービスを見極めるよう努めている。又必要としているサービスが他のサービスである場合は説明し、紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という関係だけでなく、人対人として時間を共有している関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡、特に遠方のご家族様へは、電話、通信にて本人の様子を連絡、報告するとともに相談をしている。本人に手紙を書いてもらうこともあり、家族との連携を常に意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店、馴染みの人と関わる時間を作っている。	利用者の高齢化により知人や友人の来訪頻度は少なくなったが、時々近所の方の面会があったり、知人に手紙を出している利用者もいる。また、家族となじみの美容院へ出かけたり、お墓参りや年末年始に自宅へ戻る方もいる。現在、コロナ禍のため面会や外出が制限されており、少しでもなじみの関係を継続するため、家族に利用者と一緒に暑中見舞いを書いて近況を伝えたという。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は常に把握し、職員間で情報を共有し孤立する利用者がいないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても来所して下さる家族がいる。利用者の思い出や入院中の方は、現在の状況をお聞きして相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で発する言葉、表情等により希望や意向を察するように努めている。	大半の利用者が自分の思いや意向を言葉で表出でき、利用者同士の相性や希望を考慮して食事席を決めたり、入浴時に着たい衣服を選択していただくなど意向を尊重するようにしている。また、表出できない利用者に対しては表情や仕草に加えて家族からの情報や生活歴などからも把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴の情報が少ない方は本人、家族来所時に生活歴を伺っている。新規入居の方には入居前事前訪問時にこれまでの暮らし、生活環境、得意なこと、配慮すべき点などを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことに目を向けるのではなく、できることを見つけ出していくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認している。日々のカンファレンスの中で課題とケアのあり方について職員間で話あっている。	利用者の担当は管理者と計画作成担当者が受け持ち、職員会議でのカンファレンスや朝の申し送り時のミニカンファレンスで職員からの情報を聞きながらモニタリングをしている。基本的にケアプランは6ヶ月ごとに担当者会議を開催し、その際には家族や利用者の意向も聞きながら見直しをしている。また、利用者の状態に変化があった場合には家族に相談した上で、随時変更している。現在はコロナ禍により大勢が集まっての会議ができないため、家族からは電話や手紙で意向を聞き、職員間では申し送りや日々の空いた時間を利用して少人数で話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録、申し送り、カンファレンスを通して、個々の状況把握をし、介護計画の見直しに活かしている。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、その時の時々生まれるニーズには、その都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の役員、地区社協との協働により、利用者が豊かな暮らしを送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院や利用者の主治医への受診支援を行い、連携をとっている。家族対応の受診では必要な情報を交換している。	契約時にそれまでのかかりつけ医を継続できることを説明しているが、安心感や利便性などから協力医へ変更する方が多い。協力医以外の受診は家族が対応することになっており、受診前には家族へ情報を伝え、受診後には情報を書面に残し、ケア記録にも記入している。また、週3回看護師が勤務して利用者の健康状態を観察し、月1回歯科衛生士が口腔ケアを行っている。必要時には法人内の歯科へ受診することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、利用者の健康チェック、薬の管理、医療機関との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族、入院先医療機関の地域連携室、病棟看護師等の関係者に連絡し、長期化しないように連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針について説明を行い、同意を得ている。	法人として重度化に伴う指針があり、契約時及び身体状況が変化した場合に家族に説明して同意を得ている。現在ホームには看護師が常駐しておらず、点滴などの医療的管理ができないため、看取りになる直前まで支援して、その後は家族と相談の上住み替えを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備えての救急法の訓練が確実にできていないのでミーティングの際にお互いに知識を確認しあっている。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯を想定しての火災訓練。洪水訓練の避難方法、協力体制について運営推進会議で報告している。	年2回利用者も参加し、火災想定や水害想定、夜間想定などの防災訓練を実施しており、通報訓練や緊急連絡網の確認も行っている。また、防災に関するマニュアルも整備されており、3日分の食料や水などの備蓄も準備されている。	万が一の災害に備えて、地域住民の協力が得られるように運営推進委員会で呼びかけたり、ホームの防災訓練を見学してもらったり、地域の防災訓練に参加したりして、防災上の地域との協力関係を築くことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重するための敬語をつかうことを基本とし、状況に応じた対応、接し方を会議の席や日常のカンファレンスで確認しあい、その都度お互いに注意したり管理者が注意している。	法人の理念にあるように「利用者の尊厳を守る」ことに重点を置き、管理者が申し送り時やその時々で職員に指導したり、職員が法人の研修に参加して人権意識を高めるようにしている。また利用者が排泄の失敗などをした際には、羞恥心に配慮しつつ、さりげなくケアを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いをくみとり、何気なく口にした言葉をかきとめ、職員間で共有し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットケアの基本は一人一人の体調や生活リズムに添った暮らしを尊重することであると認識し、体調やペースを大切に、柔軟な対応を心掛けている。本人のペースを尊重し、職員のペースや都合で支援してはならない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	不定期に依頼している美容師による散髪は希望に沿ったヘアスタイルにしている。洋服は利用者を選んでいただくなど意思を尊重した支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を取り入れ、好みを聞き、献立に取り入れている。食事の下ごしらえ、食事の準備、下膳、食器洗いなど一緒にやっている。	献立は事前に担当の職員が利用者の希望を聞きながら2週間分を立て、毎食職員が手作りをしており、家族や地域住民からの野菜の差し入れなども利用している。現在、何らかの介助が必要な利用者が数名おり、利用者の状況に応じて食事形態も食べやすいように工夫している。また、正月や桃の節句、敬老の日、クリスマスなどには季節を感じられるメニューを提供し、外食レクリエーションも企画しており、利用者の楽しみの一つとなっている。現在コロナ禍により外出できないため、弁当やお寿司の出前を取るなどの工夫をしており、食事に関する手伝いに関しては感染予防の観点からできる範囲にとどめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療面での指示が出ている方は、指示通りに提供している。食事量、形態は一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行い、水分は指示を受けていない方は多めに提供している。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのこえがけ、誘導して口腔内を清潔に保っている。必ず職員がチェックを兼ねて磨きなおしている。月1回歯科衛生士による指導を受け、歯科医と連携している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に排泄のパターンを把握、または利用者の様子を観察し、排泄誘導し、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。	現在布パンツで自立している方が若干名おり、他の方はリハビリパンツを使用して何らかの介助が必要な状態である。職員は排泄表や排泄パターン、表情や仕草を基に、その時々で排泄の支援を行っている。また、排泄方法やケア用品については随時家族に相談して決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記録し、排便状況の把握をしている。食物や水分補給、乳製品の提供、運動への働きかけなど行っている。看護師との連携により内服薬の使用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、その方の心身の状態により柔軟な対応をしている。	基本的には週2回以上の入浴となっており、利用者の希望や状態に応じてシャワー浴の対応も行っている。ほぼ半数の方が何らかの介助が必要であり、そのうち数名の方が安全安楽に入浴するために、職員2名対応で行っている。また、入浴を拒否される方には声掛けや職員を変えたり、入浴日を変更したりして、極力入浴できるようにしている。入浴を楽しむことができるようにゆず湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活リズムやその時々状況に応じた対応をしている。居室の室温、寝具なども含め、気持ちよく眠れるような環境にも配慮している。今までの生活習慣も考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬は職員が把握できるよう個人ファイルに綴ると共に薬が変わる場合は看護師に説明を求め、職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の暮らしの中で一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごと、散歩、買い物など気分転換等の支援をしている。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、敷地内、デッキなどで外気に触れていただく時間を持つことが出来るように支援している。地域の行事への参加、家族との外出など連携をとりながら外出できるようにしている。	現在自力で歩行できる方が半数おり、他の方は歩行器や車いすの利用が必要な状態である。日常的には敷地内の散歩やウッドデッキでの外気浴、家庭菜園での作業をして気分転換を図っている。また、年間行事計画を立て花見やバラ園、紅葉狩り、地域の敬老会などへ行ったり、個別に家族と共に外出される方もいる。2月よりのコロナ禍により外出ができなくなっているが、日常的な散歩や外気浴を行って、運動不足やストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、買い物、受診時の支払いをして頂いている。日用品や衣類などを家族と共に買い物に出かけ、レジでの支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に出迎えていただき、声を聴いたり話をして頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間であるが、テーブルの配置を考えたり、グリーンや花、絵を飾るなど気持ちの良い環境づくりに努めている。	食堂はこじんまりとした家庭的な雰囲気のある空間になっており、壁面には季節の飾りつけがされ、長い廊下にはソファが置かれるなど、自由にくつろぐことのできる場所が確保されている。またトイレは2ヶ所あり、洋式トイレだけでなく男性用立位タイプのトイレもあって自由に利用でき、浴室は3方向から介助できる浴槽が設置され、利用者と職員の負担が軽減できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、居室、リビング以外の廊下にソファを設置し、仲間と会話をしたり、一人で過ごせる空間を作ったりしている。また、ウッドデッキの活用をし、天気の良い日はいすに座ってくつろいでいただけるスペースとしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には危険なもの以外であれば馴染みの家具や品物を持ち込んでいただけるように支援している。	各居室にはエアコンとクローゼットが備え付けられており、位牌や家族の写真、なじみのテーブルやタンスなどがあり、アクティビティーで作成した作品も飾られ、生活感を感じることができた。少し前までは利用者の希望で絨毯の上に敷布団を敷いて生活されていた利用者もいたという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のできること、わかることを把握し、安全かつ自立して生活が送れるように支援している。		